

山雲水月

発行責任者 仁叟寺 住職 渡辺啓司

第29回子供禪の集い

日程が下記予定表の通り決定いたしました。宜しくお願ひ申し上げます。
対象：小学校3年～6年生

平成22年 仁叟寺年間行事予定

- 1/1～1/3 年頭祈禱・年賀受
1/4～1/7 年始挨拶
1/10 年賀寺例
2/3 大節分会
2/15 釈尊涅槃会
3/14大般若会大施食会法要
3月中旬 筆供養法要
3/18～3/24 春季彼岸会
4/8 釈尊降誕会(花祭り)
7/13～7/16
京浜地区檀信徒棚経
7/20～7/21
第29回子供禪の集い
8/10 中元寺例
8/13～8/16 盂蘭盆会
9/20～9/26 秋季彼岸会
11/3 檀信徒参拝研修旅行
12/8 釈尊成道会
12/10 歳暮寺例
12/31 除夜会

※毎週土・日曜日 書道教室

※毎週水曜日 定例坐禅会

※隔週水曜日

梅花講・琴教室・華道教室

※宗務所執務日は月水金曜

除夜会・大節分会報告

当寺恒例の除夜会ですが、昨年は新型インフルエンザの流行や本堂入口改修工事等を鑑みて、規模を縮小して修行をいたしました。事前に役員会でも検討し、新聞の折り込み広告でもその旨を伝えました。それでも、約500名近い参拝者の方が除夜会に見えられました。地域の伝統行事として根付いていることを改めて感じました。

除夜会規模縮小の為大節分会は盛会裡に、という声もあり、こちらは賑やかに開催されました。直前迄の雪も当日は快晴で全て融解。今年は、住職とご縁のある三遊亭圓楽(元楽太郎)師匠の長男の三遊亭一太郎さんを司会役に、友好寺院のスリランカ大菩提会からシイラ師、地元参議院議員で前外務大臣の中曽根弘文議員、特賞提供者の伊香保温泉ホテル天坊齋藤淑子社長等ご来賓をお迎えしての大節分会となりました。また、大節分会の様子を中国北京のTV局である中国旅游衛視台により取材が入りました。節分会の行事は中国から渡来しましたが、当地では行われなくなって長い時間が経過しております。日本に伝わる伝統行事の節分会を興味深く取材しておりました。

ほか、当行事は地元の新聞やTVにも取り上げられました。多数の善男善女の皆様方の参加を賜り、本年も盛会裡に修行することが出来ました。総代さん役員さん始めお手伝い下さいました皆様方には厚く御礼申し上げます。



↑大節分会直前に降雪

↓天地人に恵まれた仁叟寺大節分会



きんこうかくとうす

檀信徒会館欣光閣東司（御手洗）改修工事報告

仁叟寺檀信徒会館「欣光閣」の東司（御手洗）の改修工事を平成19年から昨年平成21年にかけて行いましたので、工事の内容報告をします。

仁叟寺欣光閣東司（男子トイレ5、女子トイレ3、用具入れ1、手洗栓6）

- ①トイレ内にパテーションを設置し、男女を仕切る。
- ②女子トイレを和式から全てウォシュレット機能完備の洋式に取り替え。
- ③女子トイレ床下に黒御影石を敷く。
- ④女子トイレの扉を全て交換。
- ⑤用具入れに扉を新たに設置。
- ⑥男子トイレをプッシュ式水洗から自動センサー水洗式に変更。
- ⑦手洗用水道の蛇口を全て使いやすい新型蛇口に替える。
- ⑧外側サッシ出入口の台石と木枠の取替工事を行う。
- ⑨トイレ上下水道の配管修理工事を行う。

施工業者：タルヤ建設（富岡）・吉井住設（長根）
上原建築（長根）・高田木工（吉井）

改修費用総工費215万円は、仁叟寺会計より支出。



↑ ←改修工事
施工後の欣光
閣東司（御手
洗）の様子

もんじゅどうへきが

仁叟寺探索-23- 文殊堂壁画

→
劉正教授による
渾身の力作



今回の探索は文殊堂の壁画を紹介します。なお、今年1月に補修工事を施しました。当画につきましては完成時に上毛新聞で記事になりましたので、以下紹介します。

「仁叟寺文殊菩薩の壁画 吉井 中国人画家が1年半かけ」 中国の仏教の聖地、五台山（山西省）と友好姉妹寺院になっている吉井町の仁叟寺に、中国人画家が1年半をかけて描いた文殊菩薩の壁画が完成、同寺では「立派な壁画が出来上がった。絵に興味のある人は、自由にお参りして見て欲しい」と話している。壁画は縦1.2m、横1.5mの大きさのものが12枚で構成されており、2年前に建立された文殊堂の四方の壁の部分に嵌め込まれている。壁画の絵は、「文殊菩薩無尽十種甚深大願」というお経に書かれた文殊菩薩の功德を題材にしており、迷う人を救済したり、説法する姿などが描かれている。描いたのは、中国画の実力者として知られる劉正・中国美術学院（杭州）助教授。劉正助教授は精密画を得意としており、12枚の絵はいずれも細かい線で丹念に描かれている。同寺は五台山と友好姉妹寺院になるなど、中国との繋がりが深く、関係者の往来が頻繁に行われている。今回の壁画は中国で描かれ、藤岡市内の新井慈観表具師が表装した。渡辺住職は「劉正助教授は敦煌の壁画の修復に参加した人。力の入った絵を描いていただき、感謝している」と話している。（上毛新聞・平成9年7月12日付）

ごほんぞんさまほかぶつぞうしゅうふくじぎょうしんちょくじょうきょうほうこく
御本尊様他仏像修復事業進捗状況報告



↑ 欣光閣に展示されている御本尊様
 釈迦三尊台座と光背（江戸時代中期

町時代の様式に改めて作製しております。今迄の台座は、檀信徒会館「欣光閣」に展示しております。来寺された折には、是非ご覧になって下さい。

また、同修復事業に於きましては、檀信徒はじめ志のある方々よりご理解ご協力を頂戴しましたこと厚く御礼申し上げます。檀信徒皆様方がこぞって御本尊様修復に一致協力していただき、無事修復されて帰山されます事を心より祈念しております。

当寺報及び配布文書等でもご紹介したとおり本尊様等仏像修復事業が昨年より本格的にスタートいたしました。

昨年11月25日に仁叟寺御本尊様釈迦三尊像は、佛教造形研究所の鳴沢工房での修復へと旅立たれました。約2年半の予定で修復を行う予定です。また、それに併せまして修復しておりました薬師如来像が帰山いたしました。薬師様は仁叟寺で一番古くかつ大きな仏像であり、作は平安末から鎌倉に掛けてと言われております。当寺が奥平から神保に移転する迄の間、本尊様であったと伝えられております。今回の御本山様修復に際しまして、修復終了までの間、仁叟寺の御本尊様の御代理をお勤めになります。尚、御本尊様釈迦三尊像と共に、高崎市重要文化財にも指定されております。

この度の修復に当たり、江戸時代に作製された御本尊様釈迦三尊の御台座及び御光背を、従来の中世室



↑ 御本尊様創建当時の蓮型台座
 （中世室町時代作）

こくたんいはい はんぷ

黒檀位牌を頒布しております

黒檀製の高級位牌を仁叟寺が業者からの依頼で直接に廉価で購入いたしました。限定100柱となります。市販の位牌よりも格安にて仕上げる事が可能となりました。お位牌を新調希望の檀信徒の方は、当寺までお申し付け下さい。

→ 黒檀製位牌（春日型）
 ・総丈二十三・五cm
 ・札丈十五cm



黒檀製位牌 春日型（限定100柱）

寸法 札丈5寸（15cm）、総丈7.8寸（23.5cm）

頒布価格 10,000円（彫代別）

※彫代は1霊につき4,200円です。

※格安での頒布ですので、他の型やサイズはございません。

平成21年度 寄附者一覧 (敬称略)

地域	氏名	寄附品物
神保	光田 初代	葵紋入蒔絵唐草机
奥平	矢島 英彦	
高崎	草間 俊宏	
吉井	熊谷 友之	桐製寺紋入焼香台
吉井川	熊谷 稔	
東京	齋藤 良太郎	高級皮雪駄
榛東	片木 久美	黒塗見台
横浜	清水 君代	溜塗六角位牌用台一対
深谷	高橋 俊幸	檜製卒塔婆立台
多比良	桑子 富夫	
高崎	寺本 欣一治	黄恩衣大衣(夏用)
東京	篠崎 恵美子	黄恩衣大衣(冬用)
東京	本間 紀男	二十号蓮華画
東京	向井 重郷	朱塗沈金如意
吉井川	酒井 範明	
塩	向井 敏昭	御本尊様修復特別金
高崎	寺本 欣一治	
吉井川	内田 義一	
吉井	木村 修三	扁額
高崎	中曾根 弘文	
神保	神保 堯男	新米沢山
小暮	渡辺 和男	
吉井川	新井 徳衛	平山郁夫画伯筆仁和寺月華図
佐野	磯貝 綾子	
神保	関口 益雄	ドウダンツツジ15株
新盆檀信徒各家一同		檀信徒会館「欣光閣」奥絨毯張替 袈裟



↑ 葵紋入蒔絵唐草机



↓ 高級皮雪駄



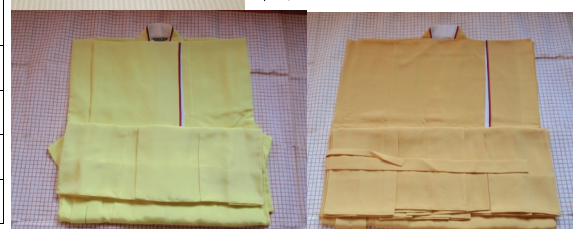
← 黒塗見台

桐製寺紋入焼香台 →



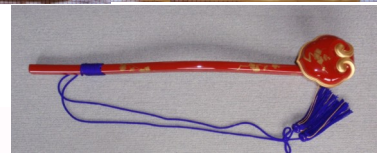
← 檜製卒塔婆立台

↓ 黄恩衣 左)冬・右)夏



有難うございました

朱塗沈金如意 →



行雲流水 (編集後記) 編集人 副住職 渡辺龍道

来る4月29日に住職を務めております龍源寺にて、恒例の大施食会と共に蚕影山顕彰碑除幕式法要・本尊様他諸佛像修復開眼会法要が修行される予定です。御導師として御本寺であります仁叟寺渡辺啓司御住職様、曹洞宗群馬県宗務所長松本泰恵御老師様をご拜請し、荘厳に執り行わせていただこうと思っております。お蚕様と当地は世界遺産化を進める官営富岡製糸場や桑葉の最高級品種である「多胡早生」等々切っては切れない縁があります。桑畑が広がり御蚕様で繁栄してきた当地の歴史を後世まで伝える為に、寺院がその役割をしっかりと担っていければと思っております。(副住職記) 法要風景(昨年)

